
スペクトラム

篠原 ひなた

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スペクトラム

【Nコード】

N4800K

【作者名】

篠原 ひなた

【あらすじ】

空を仰ぎながら、僕はぼんやりと考える。

連なるものと変わってゆくもの、それから明日のことを。

高くもなく、低くもなく、だがひとときわ澄んだ響きの鐘の音が響いた。

このあたりに、寺などあっただろうか。

と、ぼんやりした頭で考えてみる。

まとまらない。

どころか散らばるばかりの思考を脇において、なんとなく空を仰いだ。

飛行機雲が一つ、目の覚めるような青を横ぎってゆく。のびやかに、ゆったりと。

その青がどこまでも続かないことに思い至って、僕は驚いた。

見上げるこの青の彼方に、いくつもの層を超えて宇宙がある。

その宇宙は、何色だったろう。黒だろうか、白だろうか。それとも色なんて概念は無いんだろうか。

「スペクトラム」

ふと思い浮かんだ言葉を口にして、腑に落ちたような気分で笑う。人の目に映る色は、光線のほんの一部なのだと言った。

連続的な光のほんの一部が、僕たちに色を認識させる。ならばその認識が変われば、空の色なども変わるのだろうか。

「いや」

そうともいえない。

空は今も色を変えている。

目も覚めるような青から、少しやわらかな薄青。飛行機雲も、そ

ろそろ本来の色を忘れて空に溶けようとしている。

ふと、視線を落とす。

ビルの谷間にぽっかりと、赤茶けた色にならされた区画。物々しい重機。

その向こうで、たおやかに揺れる薄紅。

何度も夢見たような、幻ではなかった。その証拠に、近づいて触れても目が覚めない。

手のひらでなぞった木肌は、ざらつきながら暖かい。

「……僕より高くなるなんて、思いもしなかったな」

見上げる視界一面に、細い枝と小さな花。

シャベルで穴を掘った記憶は、こんなにも近いのに。連なった時間を変えた。……あの日の世界が、こんなにも遠い。

「ただいま」

ささやいてみた僕は笑った。かつて育ったアパートはないけれど、この場所にはこれから、小さなカフェができる。

春には桜が咲くだろう。夏には、若芽がしげるだろう。秋には葉が色づいて、冬には落ちるだろう。

思いを馳せる未来は、あの頃のように輝いていて。僕はかつてそうしたように、樹に体を預けて座り込んで、しばらくそのままぼうっとしていた。

アパートの瓦屋根によじ登って見たそれと寸分変わらないようで、だけど同じではありえない空はいつしか、桜の花びらのような薄紅に染まりつつある。

悩んでいたカフェの名前は、もう決まっていた。

(後書き)

読んでくださってありがとうございます。
ご感想などいただけると嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4800k/>

スペクトラム

2010年10月21日21時20分発行